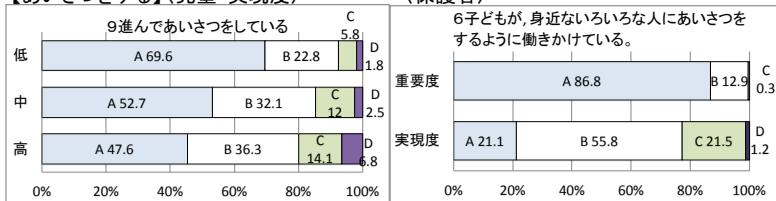
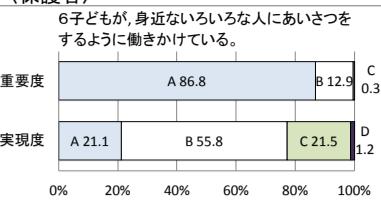


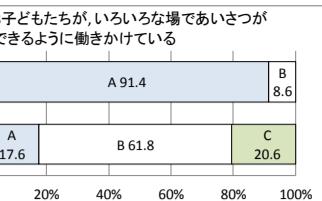
【あいさつをする】(児童・実現度)



〈保護者〉

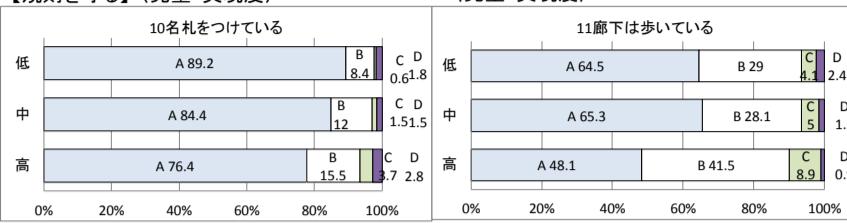


〈教職員〉

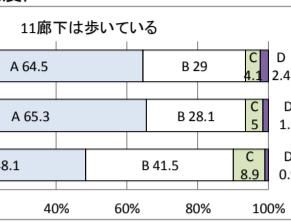


児童による回答では、低学年の90%以上、中・高学年の80%以上がA・B回答となっていますが、日常の児童の姿からは、まだ相手に届くあいさつをするという点において、改善の余地が見られます。相手意識をもってあいさつをすることが大事だということを児童がしっかりと理解し、T P Oに応じたあいさつができるように取組を進めていきます。

【規則を守る】(児童・実現度)



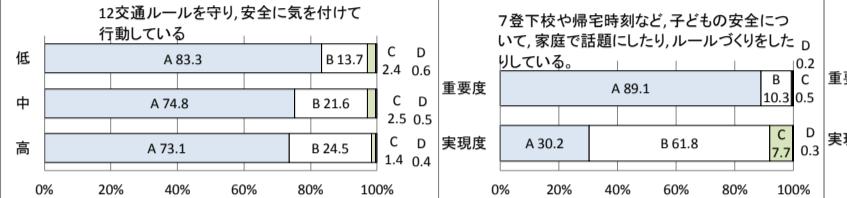
〈児童・実現度〉



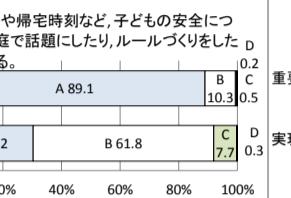
全国学力学習状況調査の質問紙より、京都市全体が全国に比べて規範意識が低いという結果となっています。本校においても、「名札をついている」「廊下は歩いている」の両者とも、高学年のC・D回答が増える傾向にあります。このことから、高学年になり学校のきまりを守ることに対して、少しルーズになっていることが伺えます。こうした実態から、今年度は「廊下や渡り廊下を歩く」ということについて、重点的に取組をしています。規則を守ることは、友達を大切にし、他の安全を守ることにつながるという人権の視点についても子どもたちが理解できるようにするとともに、その重要性を自覚し、自ら行動できるような取組を今後も継続していきます。

3 健やかな体

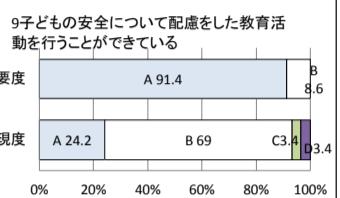
【安全に気を付ける】(児童・実現度)



〈保護者〉

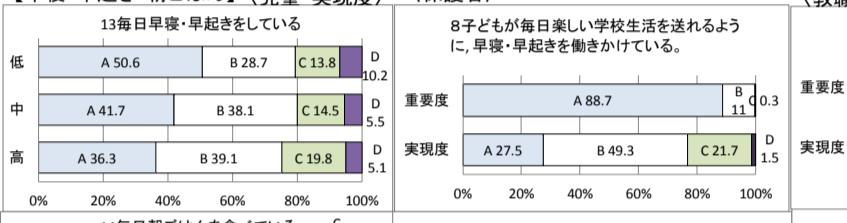


〈教職員〉

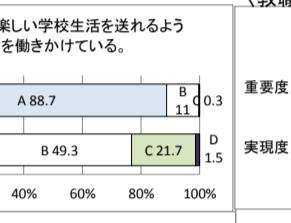


保護者回答の重要度では、A・B回答を合わせると、ほぼ100%でした。しかし、実現度ではC・D回答を合わせて8%となりました。「重要ではあるが、家庭で十分に話をすることができていない」と感じている保護者の方が少なからずおられるようです。人通りの少ない道や街灯の少ない路地など、全ての家庭が共通に子どもに指示できる安全マップの作成と安全指導を地域と連携しながら進めています。

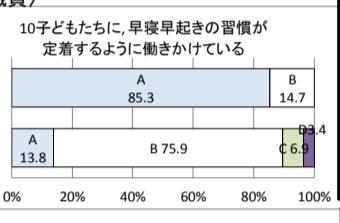
【早寝・早起き・朝ごはん】(児童・実現度)



〈保護者〉

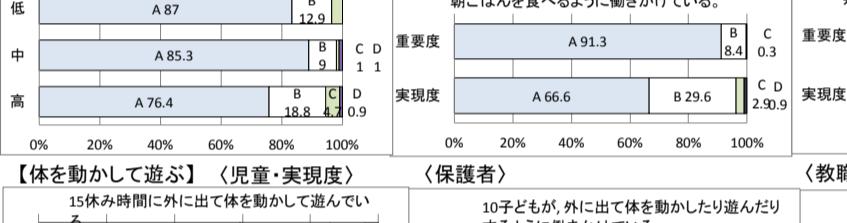


〈教職員〉

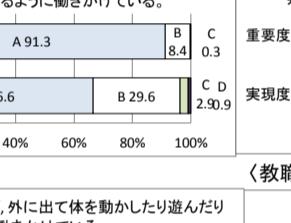


「あまりできていない」「できていない」と回答した児童の割合が、低学年で24%、中学年で20%、高学年で24.9%となり、早寝早起きについては課題が見られます。宿題や習い事などに時間が取られることが多くなり、早く寝る習慣が身についていないかもしれません。保健だより等で睡眠時間の確保の大切さや時間の使い方(テレビを見る時間、物事の優先順位など)を指導し、健康への意識を高めていきます。また、早寝早起きができると、あいさつもしっかりとできるようになるのではないかと。

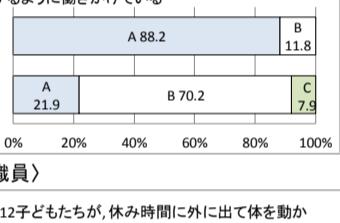
【体を動かして遊ぶ】(児童・実現度)



〈保護者〉

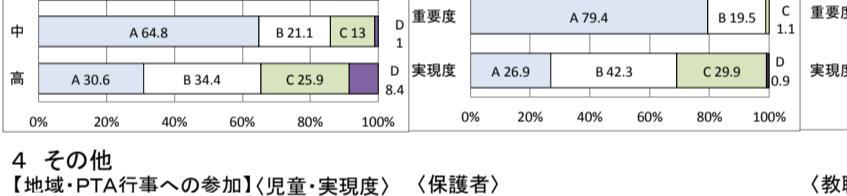


〈教職員〉

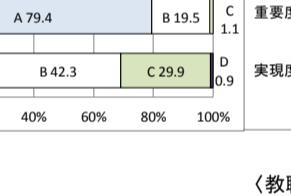


朝食については高学年で「食べている」と回答する児童の割合が低くなっています。また、低学年でも若干低い割合となっています。これは、早寝・早起きができないこととの関連もあるのではないかと思われます。保健学習や食の学習とも関連させながら、発育面や学力面などからも、朝食をとることが大切であることを理解するように指導し、意識を高めていきます。

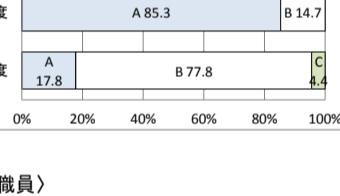
【地域・PTA行事への参加】(児童・実現度)



〈保護者〉

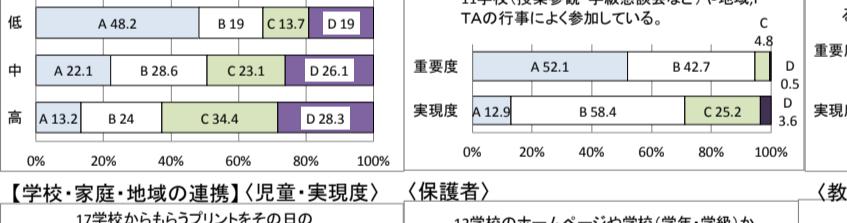


〈教職員〉

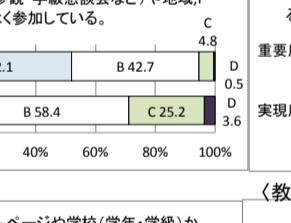


児童による回答では、高学年では実現度が低くなっています。委員会活動など、休み時間を使って活動することがあることも一因だと考えられます。また、外遊びがあり好きではないと感じる児童も増えているようです。昨年度より、児童の体力向上をめざして、毎週火曜日の長休み「ジャンプアップタイム」を有効に活用するなどして、児童が外に出て遊ぶ時間を確保し、担任も、外に出て遊ぶようにしています。また、外で遊びたくなるような遊びを「遊びの紹介コーナー」を通じて紹介しています。それに加えて、体を動かして遊ぶことが成長に及ぼすよさも伝えていきます。

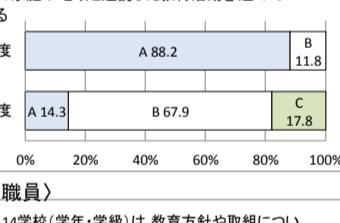
【学校・家庭・地域の連携】(児童・実現度)



〈保護者〉



〈教職員〉



学校からのおたよりなどが、配布された日に確実にご家庭に届くように、普段から持ち物を整理整頓する習慣付けを今後も行っていきます。

学校ホームページについては、タイムリーに更新して情報発信に努め、家庭や地域の学校教育活動への理解を得ると共に、家庭や地域と連携した取組をさらに進められるようにと考えています。

◆自由記述欄より(一部抜粋)

○音読は毎日必ずしていますが、本を読むことが少なくなっています。スポーツ欄、気になるところだけでも良いので、新聞を読むように声かけしています。

○あいさつができない子がとても多いように感じます。

○友達関係が広がり、どの子と遊んでいるか全ては把握できていないのが心配です。

○子どもが外に出て体を動かしたり遊んだりすることは、発育の上でも大変重要なことだと思いますが、学区内には交通量が多い大通りもあり、危険な場所があるため、親も子も安心できません。また、近年の不審者による事件なども大きな不安要素となっており、子どもが外で思い切り遊べるのはとても残念なことだと感じています。

○仕事をしているとPTAの行事はなかなか難しいです。

◆学校運営協議会評議委員会より 《特に課題として挙がっている太枠のことについて話し合いました》

◆学校評議アンケート - 振り返りを通してより良い教育活動へ -

京都市教育委員会生涯学習部より発行されている「コミュニティ・スクール通信@京都」にも掲載されているように、子どもたちの学校生活をよりよいものにするためには、学校・家庭・地域が互いに高め合う双方向の信頼関係を構築することが何よりも大切です。そして、三者が「子どもたちのために、自分はどのようなことができるだろうか。」という意識をもって、それぞれが教育活動に参画し、子どもを育むための取組を進めていくことが大切です。

このように、子どもたちへの教育は、学校だけで行うものではありません。「PLAN」(教育計画)⇒「DO」(教育活動)⇒「CHECK」(点検【評議】)⇒ACTION(修正・改善)のサイクルの中で、教職員は、「教職員アンケート」を通して自己の取組について振り返っております。同様に、保護者の方にもアンケートを通して「自分はできているだろうか。」と振り返って考えていただき、今後より良い教育活動に生かしていただく機会として、「保護者アンケート」を実施しております。これらをまとめて「学校評議アンケート」と呼んでおります。ご理解いただけますようどうぞよろしくお願い致します。

